



八潮市長 大山 忍氏

市長のメッセージ

八潮市は、「つくばエクスプレス」の開業から15年目を迎え、都心から15km圏内という交通利便性の高いまちでありながら、身近に水辺がある自然を感じられるまちです。また、八潮駅周辺地区の宅地開発等のまちづくりに伴い、人口も着実に増加しています。

八潮市は、「住みやすさナンバー1のまち」への第二章として、「ひと・暮らし・まちが、健やかで、元気な先端『健康』都市・八潮」を目指したまちづくりを進めてまいります。

はじめに

八潮市は、埼玉県の南東部に位置し、東は三郷市、南は東京都足立区と葛飾区、西と北は草加市にそれぞれ接している。面積は18.02km²で、人口はおよそ9万2千人のまちである。

市内に中川、綾瀬川、堀川、大場川、伝右川の5本の一級河川が流れる八潮市は、古くから舟運が盛んで、江戸時代には米や野菜の生産地として、江戸を支える食料供給地となっていた。その後は、東京を中心に発展を続ける産業の受け皿となったことから、県内有数の工業地域としての顔も併せ持つようになった。また、2005年のつくばエクスプレス開業に伴って、これまで鉄道駅のなかった八潮市に八潮駅が誕生した。交通の利便性が一段と向上したことを受け、駅周辺を筆頭に開発が進み、人口も増加を続けている。



つくばエクスプレス八潮駅北口

★八潮の八つの野菜

近年、全国的に農地の減少や農業従事者の高齢化が進み、農業を取り巻く環境は厳しさを増している。しかし、そうした状況下にあっても、八潮市は、肥沃な土地と豊かな水、首都近郊という恵まれた立地条件を生かし、鮮度が高く品質の良い野菜を生産して、消費者のニーズに対応してきた。

市内で生産される野菜は数多いが、それらのなかでも地場を代表する野菜といえば、2008年に選定された「八潮の八つの野菜」ということになるだろう。市内でも最大の栽培面積を誇る小松菜はもちろん、枝豆やねぎ、ほうれんそう、トマト、なすのように比較的生産量の多い野菜が中心だが、なかにはあまりなじみのない野菜も入っている。

その一つ、山東菜は中国原産の半結球性の白菜で、明治時代初め頃から栽培が始まり、市内では漬菜と呼ばれ、広く栽培されてきた。また、天王寺かぶは、1970年代から栽培されてきた大型のかぶで、肉質はち密で甘味が強く、煮物やおでんの具などに最適である。近年はやや生産量が減っているものの、八潮の特産品の一つとしてこちらも選定された。

八潮市商工会では、これら八つの野菜の地産地消を進めるため、市内飲食店・菓子店などに参加してもらい、「おいしい!」「楽しい!」料理などを提供する「やしお八つのハッピー野菜博覧会(はぴべじ博)」を開催している。スタンプラリーで各店舗へ来店された数などをもとにグランプリメニューが選ばれる。

八潮市概要

人口(2020年4月1日現在)	92,262人
世帯数(同上)	43,824世帯
平均年齢(2020年1月1日現在)	44.2歳
面積	18.02km ²
製造業事業所数(工業統計)	591所
製造品出荷額等(同上)	4,015.7億円
卸・小売業事業所数(商業統計)	566店
商品販売額(同上)	2,777.2億円
公共下水道普及率	76.2%
舗装率	86.5%

資料:「令和元年埼玉県統計年鑑」ほか



主な交通機関

- つくばエクスプレス 八潮駅
- 首都高速6号三郷線 八潮出入口から市役所まで約1km
- 首都高速6号三郷線 八潮南出入口から市役所まで約3km

★生涯学習都市・八潮市

八潮市は、1991年7月、埼玉県内では初めてとなる生涯学習都市宣言を行った。昨今では多くの市町村に取り入れられているが、八潮市の取り組みは、市民のまちづくりへの参加に主眼を置く点で、大変ユニークなものであった。

94年にスタートした生涯学習まちづくり出前講座は、市民編、子ども編、行政編など8部門で構成されており、当初は市職員が直接市民の方々のもとにうかがってお話をすることで、市政への理解を深めていただき、生涯学習を通してまちづくりを目指すことを目的としていた。しかし現在では、市民の学習機会の充実を図る目的が加わり、多くの市民ボランティアが講師として参加するようになっている。200以上の魅力あふれる講座を無料で受講できるため、市民からも大変好評である。

また、2003年からは、市民と市が協働してまちづくりを進めるため、やしお市民大学が、2007年からは、やしお市民大学学院が開設され、まちづくりの担い手として、さらに市民活動のリーダーとして活躍できる人材の育成が進められている。

子どもたちの学習に対する興味や関心を喚起し、学ぶことの意義や将来の夢を育むことを目的として、2014年からは八潮こども夢大学がスタートした。対象となる小学5年生から中学1年生の児童生徒が、連携する大学等で体験学習や講義を受け、学ぶことの意義や将来の夢を育むことを目指している。

★やしお駅前公園

八潮市は、50年後、100年後に、このまちに住んで良かったと誇れるような、八潮らしさを活かした魅力ある街並みをつくるため、2008年から八潮街並みづくり100年運動プロジェクトを進めてきた。

2015年に開園した、つくばエクスプレス八潮駅南口のやしお駅前公園の整備も、このプロジェクトの一環として進められた。具体的には、八潮市商工会からの提案を基に、市民の意見を反映させ、建築や空間設計の専門的な知識・経験のある5つの大学と連携し、公園をデザインした。広さ約1.4haの園内には、平坦な八潮の地形に丘をデザインし、市のシンボルとなる空間を創出、イベント広場やお花見広場など、様々な特徴をもった7つの広場を配置し、市民の余暇活動の拠点となるオープンガーデン(みんなの庭)になっている。

(井上博夫)



やしお駅前公園で行われる八潮夜市